

令和6年2月28日

世田谷区立深沢小学校
学校運営委員会 委員長 荻野 年一 様
学校長 須藤 央 様

学校関係者評価委員会
委員長 水越 正幸

令和5年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立深沢小学校学校関係者評価委員会では、アンケート(共通項目・独自項目)及び学校自己評価点検等の評価資料をもとに、本年度の教育活動全般について考察・検討を進め、その結果を以下のとおり報告いたします。

また、学校及び学校運営委員会においては、これらの結果を分析し、今後の対策の検討をお願いします。

なお、地域のみなさま、保護者、学校教職員、児童のみなさん、アンケート実施にご協力頂きありがとうございました。

1 評価資料概要

(1) 関係者等アンケート

対象：児童(5・6年)、保護者、地域

実施期日：令和5年10月17日～10月31日

配布数：235件(児童)、553件(保護者)、19件(地域)

回答数：208件 88.5%(児童)、474件 85.7%(保護者)、18件 94%(地域)

(2) 自己評価

対象教職員人数：17人

(3) 報告書の見方

集計は、小数第2位を四捨五入して算出した。したがって回答を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがある。

また、回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。

2 重点目標への取組み

(1) 豊かな人間性「思いやりのある子を育てる」

学校経営方針【児童育成】の重点目標の一つに「思いやりのある子を育てる」があり、そのために学校としてできることとして①「人権尊重」②「叱るより褒める」③「道徳授業」④「縦割り部活動」などを挙げられている。思いやりの心をもつためには、「相手の気持ちを想像し感じとる共感力」を形成する必要がある。また「他の人は自分とは違う感情を持っているということを理解する」必要もある。しかし、その観点を言及できるアンケート項目

が少ないことから、今後、評価項目を見直す必要もあるが、少ないながらも現在のアンケート結果より以下のように考察できる。

児童アンケート「わたしは、友達を大切にしている」に対する肯定的回答は93.7%、6年生では94.1%と高い数値である。また「友達は、私の話をよく聞いてくれる」に対する肯定的回答は87.5%と非常に高く素晴らしい結果となっている。その一方「わたしは、相手に話が伝わるように、話し方を工夫している」に対する肯定的回答は75.9%と若干低めである。共感力を高めるための「人の話を聞く」ことはできているが「人にうまく伝える」ことが児童にとっては難しいということがアンケートから考察できる。

「学習指導」に対する児童アンケート「先生は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」の肯定的回答は93.2%。また「生活指導」に対する児童アンケート「先生に注意されたことは、理解できる」の肯定的回答は86.1%と高い数値である。たとえ子供に対しても①「人権を尊重」した指導をしている結果といえる。

②「叱るより褒める」について、職員アンケート「本校の教職員は、子供のよいところを具体的にほめている」に対する回答は「とても思う」23.5%「思う」76.5%と100%達成できていると自己評価をしている。極めて素晴らしい結果となっているが「叱るより褒める」を言及した児童アンケートがなかったことが非常に残念である。

また、アンケートからは直接見えないが、④「縦割りの活動」も必要となってくる「学校行事」に対する児童アンケートの結果をみると「学校行事は楽しい」の肯定的回答は87.0%「学校行事は達成感がある」の肯定的回答は78.3%「先生は、児童の意欲を大切にしている」の肯定的回答は78.8%とあり、他のアンケート項目より若干低めの数値になっている。職員アンケートでは同項目3つとも100%となっているだけに、これらの項目での児童アンケートの結果も是非とも高数値であって欲しいところだ。思いやりへの第一歩「楽しい・好き」が見える結果にはなっていると見えよう。

「思いやり」は目には見えないものであり、アンケート結果はあくまでも参考になってしまいが、相手の気持ちを想像できることはもちろん、自分の意見を押しつけずサポートに回るという心構えをもつこと、自分と他人が同じ考えをもつとは限らないことを覚えさせるのが「思いやり」の精神である。今後も可能な範囲で大人ができることをしつつ、子供に「思いやり」の心が自然と芽生えるのを見守ってほしいと切に願っている。子供たちの笑顔を見る限り、学校としてできることは全て行なっていると思われ、深沢小学校の児童たちはみんな思いやりのある子に育っていつているように思える。

(2) 豊かな知力「探究的な学びを通し、確かな学力」

本校の教育目標における「知力」は「自分から進んで学ぼう」である。そして、今年度、この目標に向けた具体的な取り組みとして①「主体的・対話的で深い学び」と②「探究的な学びを通して、確かな学力」の育成が重点化されている。これらの①②は、児童が自ら課題を見つけ、解決に向けて、話し合いや議論を通して取り組んでいく、能動的な学習である。と言える。その考えを踏まえ、アンケート結果より以下のように考察できる。

児童アンケート「先生は課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の結果では「思う、とても思う」の肯定的回答は全学年で93.2%、6年生では94.1%と高い数値である。また、職員アンケート（教師）「本校は子供が考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている」では、全教職員が実

施の100%である。また、児童アンケート「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の肯定的回答は94.2%と高く、職員アンケート「本校は、子供が考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の結果でも全教職員が実施の100%であった。この結果より、教師の計画的・意図的で工夫された授業展開に児童は興味や関心を高め、児童が主役になって授業を受けている実態が把握できる。同時に同項目の保護者からの肯定的回答は75%前後と児童・教職員と比べ低くなっているが、学校公開での参観や児童からの限られた情報の結果であるため、数値の差はしかたないであろう。

次に児童の確かな学力の向上に必須なことは、教師の授業力向上意欲と授業改善に大切なPDCAサイクルの実践である。児童アンケート「先生は板書の書き方やプリントなど工夫している」の肯定的回答は87.1%、「先生は、映像やタブレットを工夫して、分かりやすい授業をしている」の肯定的回答も90.4%と高い。これと同じ質問の職員アンケート（教師）でも両項目とも全教職員が実施の100%であった。この結果より、教師の教材研究と授業の工夫の成果が児童の実態に反映されていることが分かる。

以上のアンケート結果より児童と担任、児童と授業者の関係はほぼ良好であると捉えることができる。「授業が楽しい」ことは「学校が楽しい」ことである。教育実践において「授業は教師の命」「教師は授業で勝負する」という名言がある。今年度の学校経営方針の組織育成で「授業力向上」、児童育成では「日々の授業を大切に！」が明記されている。今後も更に児童一人一人が「友達と関わりながら、学ぶことが楽しいと思える」ための学校経営の具現化に向けて学校評価委員としても応援していきたい。

最後に「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学びを通して、確かな学力」は学習指導要領で重点化された内容である。現行の学習指導要領が実施されて今年度で4年目が終了するが、残念なことに新型コロナウイルスの感染で対話的学び等、実践が不十分であった。その課題を来年度の教育課程にどのように組み入れていくか、検討が必要である。また、今回の豊かな知力に関するアンケートは関心・意欲・態度の面での質問と結果である。「児童育成」に挙げる「確かな学力」には知識・技能・理解など基礎・基本的な学力の定着も含まれる。今後は校内研究会、世田谷区立小学校教育研究会（世小研）の授業実践を通して、確かな学力について課題意識を高めながら取り組んでいくことが大切であると考えます。

(3) 健やかな身体「体力の向上と健康の保持増進」

今年度から、保護者アンケート(独自項目)に「子どもは、朝ごはんをしっかりと食べている」「子どもは、早寝・早起きをしている」の2点を新設した。従来、児童アンケートには同項目があったが「わたしは、早寝・早起きをしている」の否定的回答が多い状況が続いていることを受け、健やかな身体作りは家庭基盤の充実が必要不可欠であることから新たに設けた経緯がある。その点を踏まえつつ考察していく。

「わたし(子ども)は、朝ごはんをしっかりと食べている」は、児童・保護者ともに肯定的回答が高かった。この項目は以前から高い数値(約90%)を維持している。しかしながら、児童の10.1%、保護者の7.8%が「あまり思わない」「思わない」と回答している側面もあることは理解しておきたい。

児童アンケート「わたしは、中休みや昼休みに、体を動かして遊んでいる」は肯定的回答が68.2%(昨年度62.4%)と昨年度よりも5.8ポイント増加し、コロナ禍前の70%程度まで回復してきている。新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、子どもたちの学校生活も元に

戻ってきていることが窺える。一方、職員アンケート「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」は、肯定的回答が58.8%であることから、先生としてはもう少し体を動かす機会を増やしてほしいという期待があるようだ。

児童アンケート「わたしは、早寝・早起きをしている」の肯定的回答は、一昨年度65.4%、昨年度50%、今年度54.3%で推移している。否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）は、一昨年度22.3%、昨年度45.8%、今年度40.8%であった。今年度は新たに保護者アンケートに同項目を加えた結果、肯定的回答が66.3%、否定的回答が33.7%であった。両者の肯定的回答に12ポイントの差があるが、保護者アンケートは全学年が対象であることを鑑みると大きな乖離とまでは言えない。児童アンケートと同学年(5・6年)の保護者の回答結果で見ると、肯定的回答が58.4%(児童54.3%)、否定的回答が41.6%(児童40.8%)であった。否定的回答のうち「思わない」は保護者10.6%(児童16.8%)であることが気になる。子どもの心と体の健康づくりには十分な睡眠は欠かせないものである。ある調査では、子どもの体調不良の頻度と睡眠習慣の乱れに相関関係がみられるとの結果も出ている。しかしながら、学校側が「早寝早起き」の基準を明確にすることは難しく、生活状況にも左右されるため、厚生労働省「健康づくりのための睡眠指針2023」で推奨する小学生9-12時間の睡眠時間を確保できているかの声かけ等をしながら、「早寝早起き朝ごはん」が揃った健康的な生活を送れるよう、折りに触れ学校と家庭が連携を取っていくことを期待する。

3 提案及び意見

(1) 学校重点目標について

保護者の学校重点目標の理解度がアンケートでは低い数値になっていることは、令和3年度の評価委員会報告書において「保護者への伝え方などに工夫が必要」との提言を行い、令和4年度の報告書においても「さまざまな機会を通じ、継続的に発信していくことが必要」との提案を行なった。

今年度においても決して高いとは言えない数値ではあるが、この間の学校として取組みにより徐々にではあるが保護者アンケート「私は、今年度の学校重点目標を理解している」の肯定的回答が増えてきている。また、学校重点目標を各学年・各クラスに落とし込んだ、学年目標、クラス目標を設定していることから、間接的にはあるが学校重点目標を保護者は認識している、とも言える。

今後も継続的に保護者に周知、理解してもらうよう努力を続けてほしい。

(2) 児童アンケートの生活指導・学校行事について

児童アンケートの大項目「生活指導」と「学校行事」の内容は、前述のとおり肯定的回答が70~80%代と高い数値であり、学校として積極的に取り組んでいる。しかし、経年変化で見ると、全ての項目で昨年度に比べ肯定的回答の割合が下がっており、下がり幅の大きいものでは、約10ポイント下がっているものもある。

そのため評価委員会としては、今後の推移を注意深く見ていく必要のある項目と考えている。

(3) アンケートについて

昨年に引続き、アンケートの回答方法がWebサイトの回答フォームでの回答も選択できるようになっており、今年度は保護者及び地域のアンケート回答率が大幅に回復したことは、

学校のアンケート回収への取組みが功を奏した結果と言える。来年度も継続して回収率の向上に取組んでほしい。

その中で地域アンケートは、配布数が数なく一つの回答に占める割合が大きくなってしまふことから、もう少し配布数を増やすことも検討してほしい。

配布数を増やすと回答率が下がる可能性があり、保護者と違い地域の方への呼びかけ手段も限られ学校側の負担となってしまうことから、そのバランスを考慮する必要がある。

しかし「地域に開かれた学校」という方針があるからには、学校運営に関わりのある方達（学校支援ボランティアや学校母体としているジュニアスポーツ団体など）にも、学校行事や学校公開などのお知らせを送るように、アンケートの協力もお願いしてはどうだろうか。